

■ 省エネルギー部門大賞 ■

受賞者名	A G C硝子建材株式会社 北海道支社 住 所：恵庭市白樺町4-2-1 T E L：0123-21-8104 U R L：https://www.asahiglassplaza.net/products/attoch/	上席執行役員支社長 佐藤 誠
設立年月	昭和46年2月	

■ 取組内容

現場施工型後付け Low-E ガラス「アトッチ」 による建物窓ガラス改修事業の推進

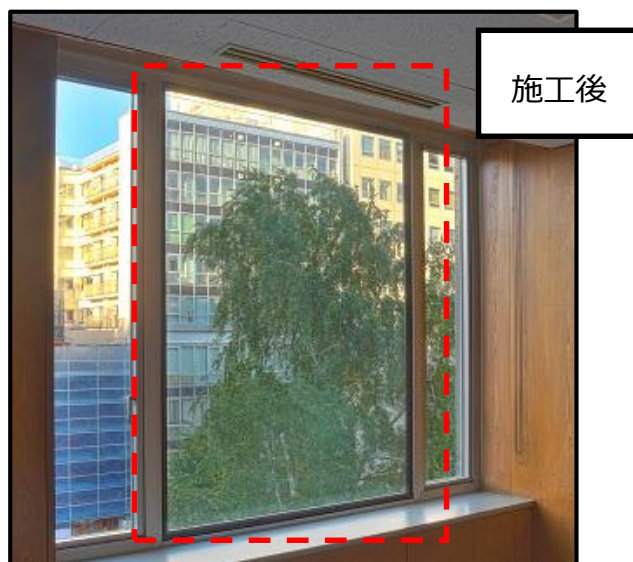
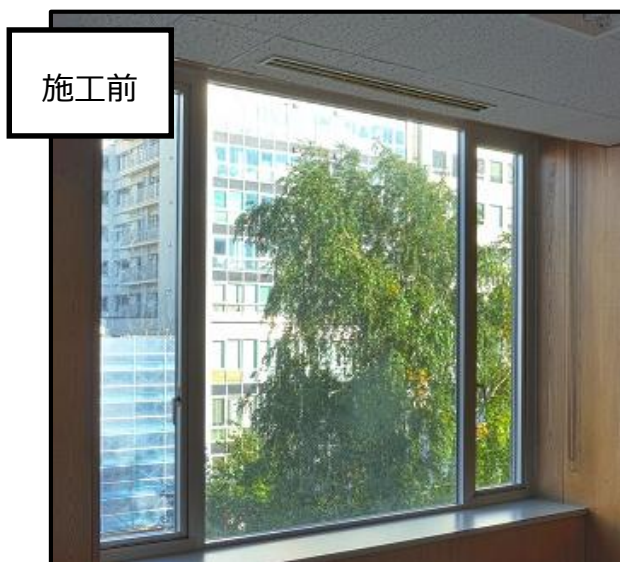
既存ガラスに室内側から遮熱効果の高い Low-E ガラスを貼り付け、現場で複層ガラス化する新しい施工方法を採用したビル・店舗の窓改修向けの Low-E ガラス「アトッチ」の普及拡大による省エネ推進

■ 選考理由

・既存のガラスを活用し、後付けで複層ガラス化をすることにより、コスト低下や工期短縮を図ることができる点や遮熱・断熱効果により、32.4%のエネルギー削減を実現（受賞企業算出）した点が、今後高い波及効果が見込まれるものと評価された。



アトッチの施工方法



アトッチの施工の様子

■ 省エネルギー部門奨励賞 ■

受賞者名	<p style="text-align: center;">北電興業株式会社</p> 住 所：札幌市中央区北1条東3丁目1番地の1 TEL：011-261-1476 URL：http://www.hokudenkogyo.co.jp/	<p style="text-align: center;">取締役社長 高橋 賢友</p>
設立年月	昭和31年4月	

■ 取組内容

冷涼気候を活かした省エネ行動誘発型の 中小規模事務所ビル設備リニューアル

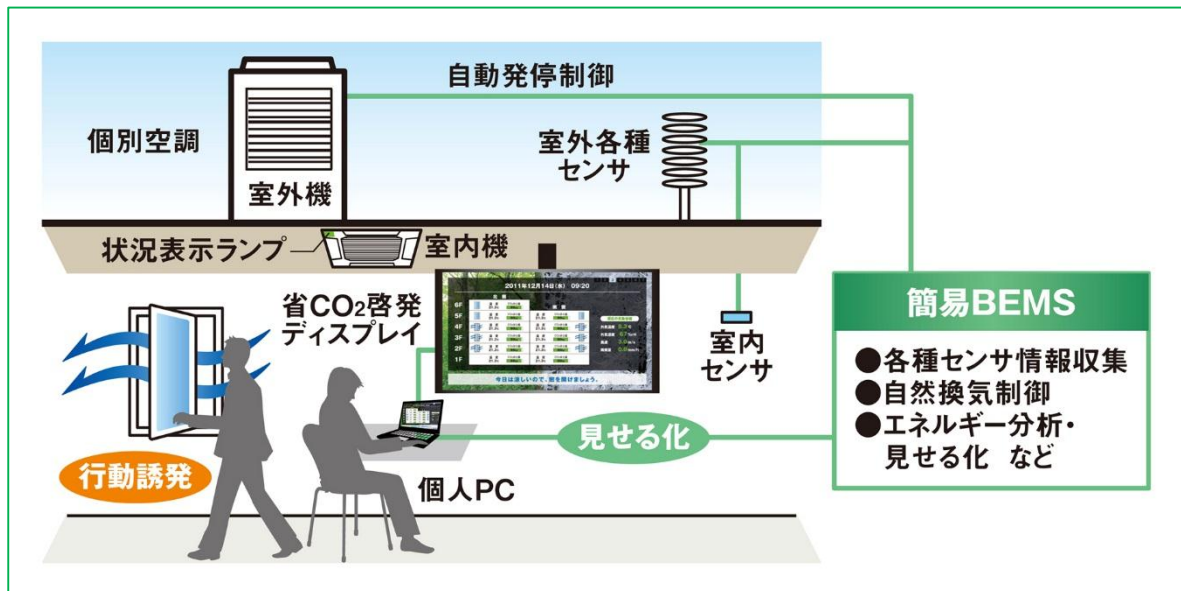
1972年竣工の北電興業ビルにおいて、「寒冷地の既築中小規模事務所における省エネ化のモデル施設とする」ことを目指した取組

■ 選考理由

運用改善・省エネリニューアル及び「見える化」による利用者の省エネ行動を誘発する簡易BEMS（ビルエネルギーマネジメントシステム）による総合的な取組を推進している点が、今後、他のビルなどに同様の取組の波及が期待できるものと高く評価された。



取組を行った北電興業ビル



簡易BEMSによる「見える化」

■ 新エネルギー一部門大賞 ■

受賞者名	PVG Solutions 株式会社 北海道支店 住所：札幌市北区北13条西3丁目2-1 北13条ビル2F TEL：011-700-1655 URL：http://www.pvgs.jp/	取締役北海道支店長 埜本 泰隆
設立年月	平成19年3月	

■ 取組内容

雪に強く、雪を活用できる両面発電太陽電池 「EarthON（アーソン）」

周囲の反射光を利用し、発電量を増加させたり、両面発電によるパネル温度の上昇で、積雪の影響を軽減したりすることで、従来の片面発電太陽電池では実現できなかった発電量を確保する両面発電太陽電池の開発

■ 選考理由

1枚の半導体素子の両側に太陽光を受光できる加工を施した両面発電型の太陽電池であり、裏面からの発電などにより積雪時にも効果を発揮でき、積雪寒冷地である本道の特徴を踏まえた製品であることや、既に道内のメガソーラーなどでも導入実績のある点が、市場性に富み、波及・啓発効果が高いものと評価された。



「EarthON」の活用したメガソーラー（道内）の状況

■ 新エネルギー部門奨励賞 ■

受賞者名	別海バイオガス発電株式会社 住 所：野付郡別海町別海2番地 TEL：0153-79-5552 URL：http://www.mes.co.jp/bbp/	代表取締役社長 小倉 智
設立年月	平成25年10月	

■ 取組内容

家畜排せつ物に由来する国内最大規模のバイオガスプラントの運営管理と副産物の新たな利活用

国から平成25年6月に「バイオマス産業都市」の認定を受けた別海町における町内の乳牛約4,500頭の家畜排せつ物を原料とする「大規模バイオガスプラント」を軸とした総合的なバイオマス利活用及び環境保全への貢献を目指す取組

■ 選考理由

国内でも最大規模のバイオガス発電施設であり、集中的に家畜排せつ物の処理を行い、多くの酪農家の負担軽減を図るとともに、消化液や敷料などを安定供給する取組である点が、モデル性が高いものと評価された。



施設全景



発電機

■ 新エネルギー部門奨励賞 ■

受賞者名	有限会社 下段モーターズ 住 所：石狩郡当別町樺戸町1055番地22 TEL：0133-23-2630	代表取締役 下段 寿之
設立年月	昭和30年9月	

■ 取組内容

コミュニティバスと連携した 新エネルギー活用の取組

平成18年から運行開始した当別町コミュニティバスの運行事業者として、廃食用油から精製したBDF（バイオディーゼル燃料）の通年利用によるバスの運行及び町と共同で太陽光発電所を建設し、売電収益をバスの運行経費の一部に充てる取組

■ 選考理由

自ら廃食用油を収集、精製し、コミュニティバスの燃料に使用するという循環モデルを構築し、BDFや太陽光といった新エネルギーを活用し、地域の公共交通を維持する取組は、他の地域に対する波及・啓発効果が高いものと評価された。



BDFを活用したコミュニティバス



当別町と共同で建設した太陽光発電所